

E B P M のための

データ利活用実践ガイドブック



ガイドブックについて

近年、EBPM（Evidence-Based Policy Making：証拠に基づく政策立案）という考え方は、多くの地方公共団体で広がりを見せています。

EBPMを行うためには、人口減少、空き家対策、医療・福祉、地域交通、防災など、自治体が抱えるさまざまな課題において、従来のやり方を踏襲するだけではなく、データを活用し、現状を多面的に把握した上で、課題をより高い解像度で捉えることが求められます。

財源や人的リソースに限られる現在では、政策や施策を検討する際、どういった点に注力すべきか、進めるべき方向性の検討においては、データを根拠とした判断が欠かせなくなっています。

一方で、実際に取り組みを進めようとする時、

「どのデータを使えばよいのか、判断ができない」

「分析の手順や活用方法が具体的にイメージできない」

「専門知識が必要そうで、自分たちでは難しい」

といった声も少なくありません。



地方公共団体の方々と対話する中で、データ利活用の専門知識や、課題解決のプロセス設計そのものが壁となり、取り組みを継続的に進めることが難しいケースも見られます。

本書は、そうした課題を感じている地方公共団体職員の方々に向けて、EBPMを「まず、小さく始める」ことを目的とした手引きとして作成しました。

皆様がEBPMを実践する上での心構えや、データ利活用の基本的な考え方を整理するとともに、地方公共団体が行った事例をもとに、「分析・意思決定・政策立案」の流れを具体的に学べるような構成となっています。また、EBPMを実践する過程で直面しやすい“壁”や、その解消するための工夫についても紹介し、自団体で取り組む際のヒントを得られるようにしています。

このガイドブックを通じて、データを「難しいもの」ではなく、日々の業務の中で課題を深く理解するための道具として捉え、EBPMの第一歩を踏み出すきっかけとしてご活用いただければ幸いです。

ガイドブックの活用方法

STEP 01

Learn — 学ぶ

EBPMの考え方を理解し、取り組みの土台をつくる

- EBPMを始める前に押さえておきたい基本的な考え方や視点を整理します。
初めて学ぶ方は、まずここからスタートです。データを使って正解を出すのではなく、問いを深めるための道具として捉えることを重視し、政策立案の前提となる論点整理や、データを扱う際の基本姿勢を学びます。
- また、統計データを取り扱う上で知っておきたい基礎知識や、データから価値を引き出すための視点、分析に役立つ考え方も紹介します。

STEP 02

Case Study — 事例に学ぶ

実際の取り組みから、リアルなプロセスと工夫を知る 現場の工夫と判断のプロセスから、実践のヒントを得る

- 全国の地方公共団体で実際に行われたデータ利活用の事例を紹介します。
- 単なる成果報告ではなく、「どのような課題から出発し」「どんなデータを使い」「どのような判断をしたのか」という意思決定の過程を、現場職員の声を交えてたどります。
- データ利活用を推進するにあたり、自治体に特有の課題がいくつかあります。たとえば、庁内の合意形成、データ取得に関する制約、関係部署や民間事業者との連携・調整、人材育成の課題などです。これらに対して、各自治体が取り組み、どのような工夫を凝らしたのかを、詳細なヒアリング結果をもとに示します。
- データの選定から分析、組織調整、政策判断に至るまでのプロセスを可視化し、実践に向けたリアルな知見を共有します。
- このSTEPでは、EBPMにどのように取組み始めたのか、最初の一步でどのような壁に直面したのか、それらをどのように突破したのかについて、体感できるよう構成しています。

STEP 03

Practice — 実践する

自団体の課題への転換

- LearnとCase Studyで得た知識とヒントをもとに、自団体の業務や地域課題に置き換えて考えるためのワークシートを掲載しています。課題整理シート、データ棚卸リスト、施策アイデアメモなど、実際に手を動かしながら思考を整理できる構成となっています。
- 「どこから着手すればいいかわからない」という段階であっても、ワークを通じて自団体の現状を可視化し、課題の優先度や活用可能なデータを整理することで、次のアクションを具体的に描くことができます。
- また、検討途中での気づきや仮説、担当間の共有メモとしても活用でき、庁内での対話や連携を促すツールとして活用していただけます。

目次

ガイドブックについて

ガイドブックの活用方法

第1章 EBPMを動かすための準備 –視点と思考を整える

- データ利活用の実践に向けて
- EBPMとは –データで考える自治体の新しいあたりまえ
- データ利活用の基礎サイクル（PPDACサイクル）
- EBPMに役立つ「統計の基礎」
- データとは
- データの前処理
- データの加工
- 基本統計量
- データの可視化
- 自治体で行われる統計解析例

第2章 公共交通の課題構造をデータで読み解く

- 公共交通を取り巻く現状と課題構造
- 変化するアプローチとデータ活用の潮流
- 外部データの活用事例
- 公共交通×データ活用
- GIS可視化について
- 公共交通課題分析の基礎プロセス「PPDACサイクル」
Problem / Plan / Data / Analysis / Conclusion

第3章 自治体におけるEBPM実践事例

- 事例 広島県廿日市市 データで構想する、地域交通の再設計「廿日市市地域公共交通計画」
- 事例 滋賀県日野町 地元企業と挑んだ、公共交通再生の実証実験町の公共交通再活性化に向けたビッグデータ活用分析実証実験事業

第4章 EBPM実践ノート職員インタビュー集

- 広島県廿日市市 自治体担当者インタビュー
- 滋賀県日野町 自治体担当者インタビュー

第5章 つまづき解消ナビEBPM逆引きヒント集

- 壁1 データがない／集められない → 既存統計の使い方
- 壁2 課題が定まらない → 問いの立て方
- 壁3 分析が難しそう → “見える化”から始める
- 壁4 庁内調整が進まない → 合意形成の工夫
- 壁5 継続できない → 引き継ぎの設計

第6章 WORKBOOK

- 自団体の現状を理解するデータでいまを見える化する

第7章 WORKBOOK

- 行動計画を立てる小さな一歩をかたちにする